

前橋市自立支援協議会広報 みんなのらいいふ 第7号

発行日 平成26年12月1日

題字： 須田 美樹 様（富士見作業所）

発行元：前橋市自立支援協議会

お問い合わせ先：

前橋市障害福祉課 前橋市自立支援協議会

広報啓発部会 事務局

電話027-220-5713 Fax027-223-8856

ホームページ <http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/42/125/139/p002057.html>

講演会を開催します

「ノーマライゼーションを目指して ～あったらいいなをかたちに～」

前橋市自立支援協議会では、障害福祉について理解を深めることを目的に啓発活動に取り組んでいます。今回は、わーくはうすすてっぷの鈴木隆子氏をお招きし「ノーマライゼーションを目指して～あったらいいなをかたちに～」をテーマに、障害のある人が普通に暮らせる地域づくりについての講演会を開催します。障害福祉に関わっている方はもちろん、一般の方の参加もお待ちしておりますので、ぜひ会場までお出かけください。

※事前の申込みは不要です。
直接会場へお越しください。（入場無料）



【開催日時】

平成27年1月31日（土）

午前10時～正午（開場午前9時30分）

【会場】

前橋市総合福祉会館2階 多目的ホール
（前橋市日吉町2-17-10）

「みんなのフェスタ」開催します

前橋市自立支援協議会では、今年も仕事や学業のかたわら、音楽やダンス等を頑張っている障害児や障害者の皆さんの発表会、「みんなのフェスタ」を開催します。合唱、ダンス、作品展示など、盛りだくさんの内容となっています。一人ひとりが、日頃の練習の成果を存分に発揮し、一生懸命演じる姿を、ぜひ、ご覧ください。そのひたむきな姿に、きっと心を動かされるでしょう。みなさまのご来場をお待ちしております。

＜入場について＞

事前の申込は不要です。

直接会場へお越しください。（入場無料）

＜発表中の通訳について＞

ステージ上で手話通訳と要約筆記を行います。



【開催日時】

平成27年2月22日（日）

午後1時30分～3時30分（開場午後1時）

【会場】

前橋市総合福祉会館2階 多目的ホール
（前橋市日吉町2-17-10）

お出かけするときは？

～ 福祉サービスの利用例 ～

移動支援や同行援護など、お出かけするときにも使える福祉サービスがあります。外出の目的や楽しみ方は人それぞれ。今回は2名

の方に福祉サービスを使ってどんなところへお出かけしているか、実際に使ってみての感想をお聞きしました。

Aさんの場合（52歳 男性）

【障害の状況】

網膜色素変性症による視覚障害1級

【利用しているサービス】

- ・ 同行援護
- ・ 居宅介護（家事援助）

【出かけている場所・目的】

スーパー（買い物・歩行練習）、公園（運動・歩行練習）、温泉（余暇活動）、コンサート（余暇活動）

【本人の感想】

- ・ 一人で外出するのは大変なので、同行援護を利用し、温泉やコンサートに行けてストレス解消になっています。
- ・ 外出ができることも楽しいですが、ヘルパーと一緒に話しをしながら出かけることも楽しみになっています。
- ・ 歩く練習もヘルパーが見守ってくれているので、安心できます。一人で公園やスーパーに行けるようになりたいです。

Bさんの場合（35歳 男性）

【障害の状況】

脳性麻痺、障害支援区分6です。会話は出来ます。知人とはタブレットを利用して情報のやりとりをしています。

【利用しているサービス】

- ・ 移動支援（身体介護有、2人介護）
- ・ 居宅介護支援（身体介護）⇒自宅での入浴介助、料理など（在宅で生活しています。）

【出かけている場所・目的】

ショッピングセンター、CD・DVDのレンタル、病院の通院、先日は温泉に行き一般のお客様と一緒に大浴場や露天風呂に入ってきました。

【利用して良かったこと、感想】

普段は在宅生活で外出をする機会がないので、移動支援を利用する事によって色々な人と接する事が多くなり、社会性が広がり充実してきていると思います。本人の余暇時間が確保できた事により、家族の介護負担の軽減も出来ています。

【今後の目標】

ヘルパーさんと一緒に電車に乗って東京に行きたいです。また、今後もタブレットを利用して情報のやりとりをしていきたいです。

Aさん、Bさんの利用している福祉サービス

| サービスの種類 | 内容 |
|---------|---|
| 同行援護 | 視覚障害により、移動に著しい困難を有する方に対し、外出時において同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護等の支援を行います。 |
| 移動支援 | 野外での移動が困難な障害をお持ちの方について、外出のための支援を行い、地域における自立生活及び社会参加を促します。 |

自立をめざして

二葉高等養護学校1年 宮田さん（16歳 男性）



宮田さんはこの春、肢体不自由児施設を退所し、寄宿舎へ入り、二葉高等養護学校へ通い始めました。平日は寄宿舎から学校へ通い、週末は自宅で生活をしています。今回は、そんな宮田さんにインタビューさせていただきました。

Q「肢体不自由児施設を退所した理由はなぜですか？」

A「家に戻って、寄宿舎に入り学校に通いたい、自立したいと思ったからです。」

Q「移動支援でどんな所に行っていますか？」

A「本屋さんで漫画を読んだり、スーパーでお菓子を買ったり、高崎駅やコンサートなどに行っています。高崎駅は大きく、人が多いのでびっくりしました。」

Q「自分で変わったと思うことありますか？」

A「他人に挨拶したり、話しかけたりできるようになりました。バスの中で物を落とした時『拾ってください』と頼むとみんな笑顔で拾ってくれます。断られたことはないです。また、他の高校生と挨拶を交わしたりもしています。お店でも『コレください』と言えるようになりました。」

Q「寄宿舎や自宅での生活はどうですか？」

A「寄宿舎生活は、いろいろ日課があって大変だけど楽しいです。机拭き、トイレ掃除、コップ洗いなどの当番があります。また、

自宅でも皿洗い、洗濯、風呂洗い、家族の靴そろえなど、できる事はやっています。高校生活は3年間、あと2年半しかありません。就職して自立するために、できる事はやろうと考えています。将来一人暮らしをしたいです。」

Q「勉強に関してはどうですか？」

A「パソコン検定を受けています。今、3級取得に向けて勉強中です。受ければ履歴書に載せることができます。」

Q「最後に、行ってみたい場所はどこですか？」

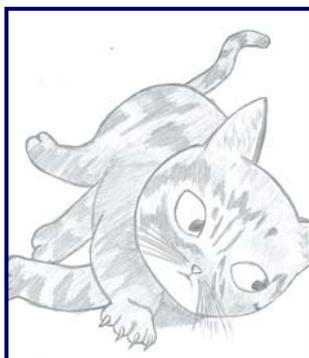
A「イタリアのミラノへサッカーを見に行きたいです。日本だと広島の実業ドームへ行きたいです。はだしのゲンを読んで衝撃を受けました。あと埼玉スタジアムです。」



【インタビューを終えて】

宮田さんは、カッコいい車椅子に乗った、笑顔が印象的な高校生でした。移動支援を使って外出することが、たくさんの社会経験につながっていると感じました。スタミナをつけるためのリハビリや、身の回りの事など、自立と就職を目標に取り組んでいる姿に感銘を受けました。大好きなサッカーを観戦しにミラノへ行く日も、そう遠くはなさそうです。

みんなのアーツ（作品紹介）



【題名】左：You & Me
右：暇？

【作者】大谷 雄佑 さん

鉛筆画

題字・イラスト募集

本誌に掲載する題字と季節のイラストや挿絵を募集しています。あなたの作品で本誌に彩をそえていただけませんか。詳しくは事務局（連絡先は表紙に記載してあります）へお気軽にお問い合わせください。

オープナー（ユニバーサルデザインの紹介）

ペットボトルや瓶のキャップが固くて開けられない時、ありますよね。日常の「フタを開ける」という動作は、手の力が弱い人にとって大変です。これは、瓶・缶ジュースや缶詰・ペットボトルまで対応できる万能タイプのオープナーです。持ち運ぶには適しません、大きいので失くしにくいという利点があります。使い方は、キャップを細い方へと合わせていき、クイッと回すだけ。内側にゴムが貼ってあり、滑りません。また先端のとがった部分では缶詰や缶ジュースのプルトップも楽に起こせます。爪が痛くなる心配もありません。ネイルアートをしている方にも優しいそうですね。まさにユニバーサル！

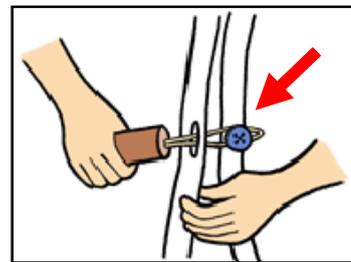


これなあ～に？



答えは・・・「ボタン掛け」

これは、リウマチや片麻痺、頸椎損傷、高齢などにより指先を細かく動かすのが難しく、ボタン掛けがうまく出来ない方でも、針の糸通しをする要領で簡単にシャツなどのボタン掛けが出来る自助具です。矢印の部分で、ボタンを引っ掛けて引っ張ることにより、楽にボタンをとめることができ、着られる洋服の幅が広がります。折りたたみ式のものや、ボタンのサイズに合わせて両側に大小のボタン掛けがついているもの、片側はファスナーを引っかけて引っ張るようになっているものなどがあります。



編集後記

今年も残すところあとわずかとなりました。12月になると、いつもと変わらない生活をしているのに、なんだかせわしく感じますよね。今回の記事を読み、普段の生活の中で幸せや楽しみを見つけること、目標を決めることで、毎日がより充実すると改めて感じました。今年に

悔いを残さないよう、せわしく思うだけでなく有意義な毎日にして締めくりたいと思います。

寒さが厳しくなりましたが、体調に気をつけ、大掃除等々、新年を迎える準備をがんばりましょう。